

1 本校の研修課題

主体的に学習に取り組む意欲を育む指導法の研究

～言語活動の充実による基礎学力の定着を目指して～

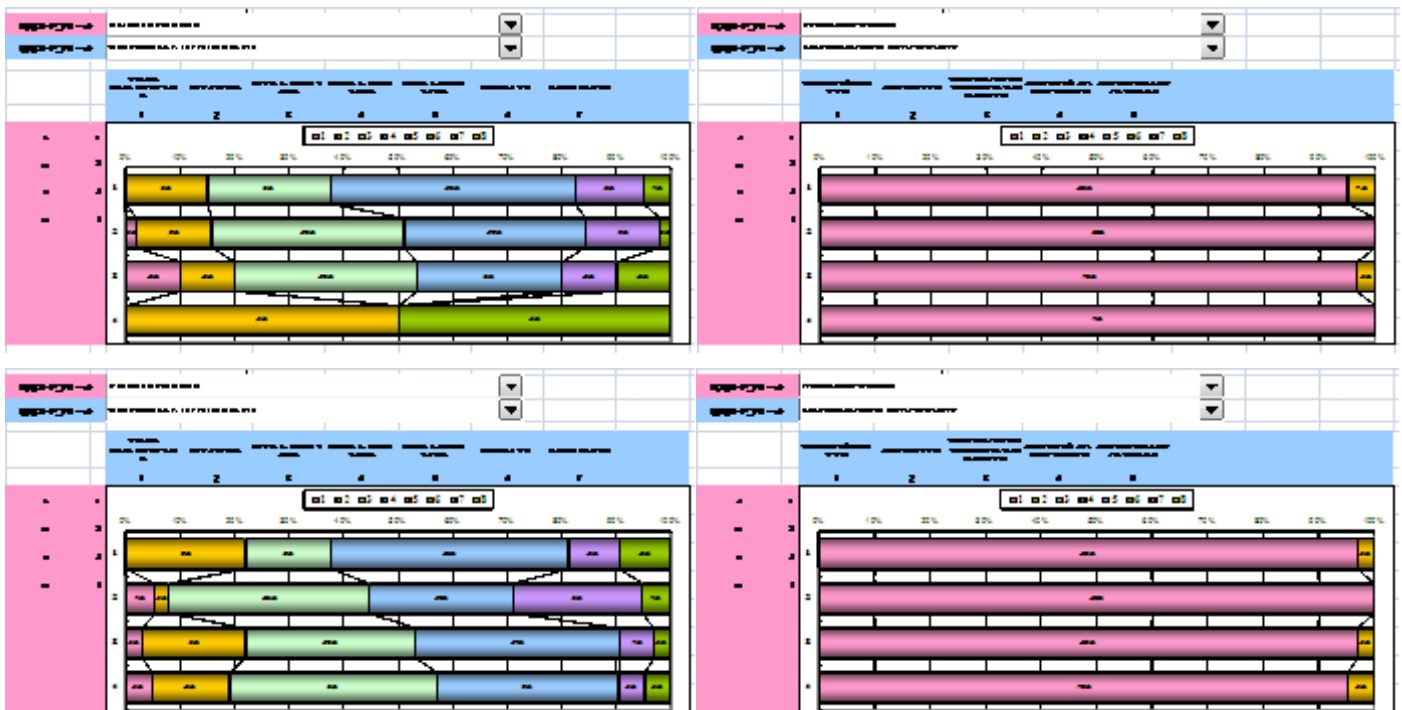
研修課題のもと、分かる授業の実践・生徒の学習面での課題解決の2つの方策を採り、その具体的な取り組みを学習状況調査分析支援プログラムの活用をしながら進めている。

2 埼玉県・全国学習状況調査からみる課題

- (1) 埼玉県学習状況調査と比べると、本校は国語・数学・英語の正答結果は平均以上でよくできていたが、理科は第1・2分野ともに平均以下であり、社会の歴史的分野も弱い傾向が見られた。
- (2) 全国学習状況調査の県平均と比べると、残念ながら国語・数学・理科のすべての正答率が平均以下であり、喫緊の課題解決が必要となってくる。
- (3) 生徒アンケートから、次の2項目が低い。
 - ・「ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。」
 - ・「学習の授業時間以外に、1日だいたいどのくらい勉強しますか。」

3 学習状況調査分析支援プログラム<中学校 クロス集計>の活用

- ・理科における「【観点】〈関意態〉」と「学校の授業時間以外に、1日にどのくらい勉強しますか。」「ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。」の相関がある。
- ・社会における「【観点】〈関意態〉」と「学校の授業時間以外に、1日にどのくらい勉強しますか。」「ふだん家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。」の相関がある。



4 学力向上に向けた具体的な取り組み

- (1) 【3年学習会】今年度からの新たな取り組みとして全職員で行い、改善を重ねながら学習のつまずきを克服、学習方法の定着を図る。また、生徒一人一人の学力を保障し、習熟度に応じた丁寧な学習指導を行う。
- (2) 【家庭学習の奨励】家庭学習の「ねらい」「方法」「課題」等の具体的提示を行い、各教科担当から取り組み方を提示する。また、実施2ヶ月後に、軌道修正・再提示をする。
- (3) 【3つの達成目標と絡めた取り組み】合計年間9回の漢字・計算・スペリングコンテストの実施。
- (4) 【授業研究会と校内研修会の活用】年間に全教科授業研究を実施する中で、「言語活動の充実」を焦点化して、ご指導をいただいた内容を検討し、授業への活用を図る。